

「目に優しい」新しい蛍光体を用いた 白色 LED 照明器具を開発

- NHK は、「目に優しい」クルムス (Cl_MS) 蛍光体^{*1)} を用いた白色 LED 照明器具を株式会社小糸製作所と共同で開発しました。
- 現在、省エネルギー光源としてテレビ番組の制作現場における白色 LED 照明器具の導入を進めていますが、一部の出演者からは「光源が視界に入るとまぶしく感じる」という声がありました。
- クルムス蛍光体を用いた白色 LED は、従来の白色 LED と比べてフラットな分光スペクトル特性^{*2)}に特徴があり、また発光面積を大きく設計できるため、出演者が光源を直視した際のまぶしさを低減することが可能です。
- 今回、スタジオでキャスターを照らす「キャスターライト」と、口ケや中継で使用する「ソフトライト」の 2 種類の照明器具を試作して、従来型の白色 LED 照明器具との比較評価を実施しました。その結果、約 9 割の方から「試作品はまぶしくない」との回答を得ました。
- また、演色性^{*3)}にも優れており、5 月 25 日 (日) 放送予定の NHK 大河ドラマ『軍師官兵衛』(第 21 話・官兵衛幽閉シーン) の収録でも使用しました。今後、さらに番組での試用などを重ね、番組制作用照明器具としての最適化を図っていく予定です。

*1) 紫色光を吸収し、黄色に発光する蛍光体。平成 24 年に株式会社小糸製作所、東京工業大学、名古屋大学が開発。

*2) 光の波長ごとの強度分布。従来の白色 LED は青色成分に強いピークを示すものが多い。

*3) 物体を照射したときの色の再現性。太陽光を基準とする評価方法が一般的。

(別紙)



写真1 キャスターライト
(左：従来型 右：クルムス型)

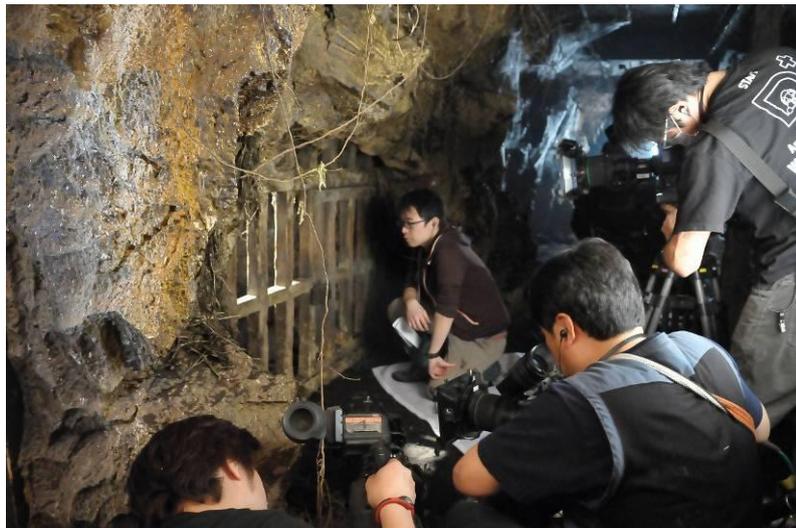


写真2 『軍師官兵衛』 幽閉シーン収録の様子